

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K20523

研究課題名（和文）ベトナム南部における医療ネットワークの展開と継承

研究課題名（英文）Healthcare network in southern Vietnam

研究代表者

小田 なら（ODA, Nara）

東京外国語大学・世界言語社会教育センター・講師

研究者番号：70782655

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、ベトナム南部において伝統医療による治療をおこなってきた宗教集団を対象とし、医療実践とそれを支えるネットワークがいかなる展開を経て変容してきたのかを解明することであった。しかし、新型コロナウイルス感染症のため現地調査は予備調査にとどまったため、文献調査が主となった。その結果『<伝統医学>が創られるとき ベトナム医療政策史』（京都大学学術出版会、2022）などで指摘したように、南ベトナムおよび統一後の南部ベトナムの医療には政策と実態のずれがあることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、伝統医療を一つの手がかりとして、ベトナム、ことに南ベトナム時代の具体的な人々の経験をベトナム近現代史に位置づけることで、ベトナム独自の伝統の変容のみならず、その多様性を描くものである。この作業は、南北ベトナムを通じた同国の歴史叙述の空隙を埋めるためのものとして意義をもち、ベトナム国内で見過ごされてきたベトナム医療の全体像を提示する基礎的な資料となる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate the transformation of healthcare practices and the supporting networks among religious groups that have been practicing traditional medicine in southern Vietnam. However, due to the COVID-19 pandemic, on-site surveys were limited to preliminary investigations. Therefore, literature research became the main focus. As a result, as pointed out in works such as "The Making of 'Traditional Medicine': A History of Vietnam's Medical Policies" (Kyoto University Press, 2022), it became evident that there is a discrepancy between policies and the actual healthcare situation in southern Vietnam during the time of Republic of Vietnam and the post-unification period.

研究分野：地域研究

キーワード：伝統医療 ベトナム共和国 南ベトナム 仏教 南薬

1. 研究開始当初の背景

20世紀の国家形成の過程で、ベトナムの伝統医療は、外来(中国やフランス)の医学の影響を受けつつ、それらとの差別化を図りながら独自の発展を遂げてきた。公的医療制度において伝統医療がほとんど西洋医学に取って代わられた日本とは異なり、ベトナムの人々の健康観は、現代においてなお、この伝統医療に依るところが大きい。

申請者は本研究開始まで、植民地支配や戦争や貧困を経験してきたベトナムが、国家形成の過程で「伝統医療」をどのようにカテゴライズし、歴史的に位置づけ、管理するようになったかを、伝統医療が実践される場の変遷にも目配りしつつ、研究してきた。

しかし、ベトナムの伝統医療を構成する要素の分析の中でもとりわけ不足してきたのが、ベトナム南部についての研究であった。南北分断期(1954年~1975年)の北ベトナム政府とその後継である現在のベトナム社会主義共和国は、ベトナム戦争の勝利を根拠に統治の正統性を示すため、北部の伝統医療を<国家の医療>として積極的に普及させてきた。しかし同時期の南ベトナムにおける状況については全く無視され、あるいは「南ベトナムの伝統医療は(アメリカや西欧諸国が支持した国家とみなすために)西洋医学に抑圧されていた」とする言説が形成されている。

学術的にも、ベトナムの伝統医療をめぐる歴史・社会史的アプローチは近年まで西欧を中心に蓄積されつつあるものの、南ベトナムの状況は不明瞭である。ベトナム医療史の叙述では、伝統医療対近代医療という二項対立の軸やベトナム伝統医療という言葉自体に絡め取られ、国内の地域差が見落とされてきた。北ベトナムと全く異なる環境や社会基盤を持つベトナム南部において、分断期と統一の後にはどのような政策が採られ、社会に変容をもたらしたのか。これらの点の解明なくしてベトナムの伝統医療の全貌は明らかにならない。

2. 研究の目的

本研究では、ベトナム南部において伝統医療による治療を積極的におこなってきた集団を対象として、医療実践とそれを支えるネットワークがいかなる展開を経て変容し、現在まで継承されてきたのかを解明する。調査対象とする集団は、ベトナム南部にのみ寺院をもつ在家仏教の団体、浄土居士仏教会である。この団体は、南北ベトナムの統一直後に保健省幹部が実施した調査報告で、ベトナム独自の医薬である「南薬」による治療をおこなってきた。浄土居士仏教会は現在も本部のホーチミン市やカントー市をはじめ、ベトナム南部の各地で「南薬」の薬草治療を無料でおこなっており、日々多くの信者や市民がこれに集っている。国家的な伝統医療政策とは明らかに矛盾するこうした団体が、なぜ、長期間に亘って大規模な活動を継続しえたのか。本研究は、この団体の医療実践を成立させる社会的基盤を解明し、北ベトナム政府の役割に収斂しがちな既存の医療史叙述を根本から改めることを目指した。

3. 研究の方法

本研究課題では公文書や雑誌・新聞など出版物による文献調査と、現地での聞き取り調査を組み合わせ、医療活動を支える薬の入手法・治療者の教育・診療所運営の具体的なネットワークについて資料を収集することとしていた。研究期間の初年度は日本国内を中心として新聞・雑誌、そのほか論文資料を収集し、2年目以降に現地調査をおこなうこととした。

当初計画していた時代区分は以下のとおりである。

南北分断期(1954~75年)

南北統一からドイモイ開始前(1975~85年)

ドイモイ開始以降、経済的影響が可視化される1990年代初頭まで(1986~90年ごろ)

さらに、これらの時代区分に沿って以下のテーマに取り組むこととしていた。

- A) 浄土居士仏教会の南北分断期~統一後の国家における医療団体としての位置づけ
- B) 薬材「南薬」の入手方法、診療所の活動の解明
- C) 医学教育と浄土居士仏教会の治療師との関係
- D) 宗教的慣行と医療実践の相互作用

4. 研究成果

本研究課題の初年度末から、新型コロナウイルス感染症によるベトナム国内の感染拡大防止政策が厳格に導入され、現地調査を断念することとなった。その後、当初の研究期間終了(2021年度末)まで現地への渡航が制限されていたため、研究期間を2022年度まで延長した。しかし、それでも現地調査をおこなえたのは2度であったため、研究成果は文献調査およびそれらを統合した成果出版に集中した。

2019年度と2022年度に実施したベトナムでの現地調査では、ハノイの国家図書館とホーチミン市の総合科学図書館で仏領期の新聞資料を中心に閲覧し、本研究課題の中心となる浄土居士仏教会を位置づける手がかりをつかんだ。そこからは、浄土居士仏教会は仏領期にも周縁に置

かれていたこと、およびベトナム北部には広まっていないことが明らかとなった。

また、開祖の記念日にあわせた祭礼の期間には南部各地から信者が家族ぐるみで信徒となって巡礼していた一方、浄土居士仏教会には所属せず、かつ北部を拠点とする仏教徒による植物の市場が境内に出されるなど、近年は外部団体との連携がみられることが分かった。

本研究期間は新型コロナウイルス感染症対策のために現地ではほとんど滞在できなかったため、今後の継続した現地調査が待たれる。なお、研究成果の一部はシンガポール国立大学出版会による英語論集“Fighting for Health: Cold War Medicine in Southeast Asia”（仮題）の1章に収められる予定である。

主な研究成果は、以下のとおりである。

- 発表
 - ・ 「現地化する医療 ベトナム伝統医療における『華人』」
研究課題「ベトナム・中国二国間関係の下で揺れ動くベトナム華人に関する歴史的研究」（科研基盤 B・代表伊藤正子）の成果報告会/日本ベトナム研究者会議研究会および東南アジア学会関西例会、第 11 回アジア研究者会議(ICAS11)で発表した。
 - ・ How to make ‘Vietnamese Traditional Medicine’ More Vietnamese? : Neglected History in the Divided Vietnam (1954~75)
“The 19th Asia-Pacific Conference: Diversity and Inclusion”（於立命館アジア太平洋大学）で、本研究課題が扱う南部ベトナムにおける南ベトナム時代の伝統医療について報告し、日本の伝統医学、チベット医学、インドネシアの薬草治療の研究者とともに非西洋医療の社会・文化的文脈の相対化を目指した。
- 出版物
 - 『<伝統医学>が創られるとき ベトナム医療政策史』（京都大学学術出版会、2022）
南ベトナムおよび統一後の南部ベトナムの医療に関し、政策と受容した社会の双方について補足する記述を加え、本研究期間で得られた資料に基づいて博士論文を大幅に改稿し、出版した

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小田なら	4. 巻 2
2. 論文標題 書評：黒田学編著・監訳『若き医師たちのベトナム戦争とその後：戦後の礎を築いた人たち』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館アジア・日本研究学術年報	6. 最初と最後の頁 178-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Nara ODA
2. 発表標題 How to make 'Vietnamese Traditional Medicine' More Vietnamese? : Neglected History in the Divided Vietnam (1954-75)
3. 学会等名 The 19th Asia-Pacific Conference: Diversity and Inclusion (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 仏領インドシナ期の伝統医療 薬草治療法のマニュアル化
3. 学会等名 国際学術シンポジウム「帝国と植民地の医療・衛生と社会政策」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ODA, Nara
2. 発表標題 Vietnamese Traditional Medicine in the South: Diversity and Integration
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 現地化する医療 ベトナム伝統医療における「華人」
3. 学会等名 東南アジア学会関西例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 現地化する医療 ベトナム伝統医療における「華人」
3. 学会等名 科研B「ベトナム・中国二国間関係の下で揺れ動くベトナム華人に関する歴史的研究・代表伊藤正子」成果報告会/日本ベトナム研究者会議研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 小田 なら	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 326
3. 書名 < 伝統医学 > が創られるとき	

1. 著者名 Nara ODA	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 12
3. 書名 Chapter3: Traditional Medicine in the Mekong Region, In Seiichi Igarashi ed. "From Mekong Commons to Mekong Community An Interdisciplinary Approach to Transboundary Challenges"	

1. 著者名 小田なら	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5. 総ページ数 54
3. 書名 「1950～60年代のベトナムの植物図鑑にみるシナモン」岡田雅志・柳澤雅之編『アジアの薬用植物資源の生産・流通・利用の歴史に関する学際的研究 ベトナム・日本の薬用植物資源流通と情報』CIRAS Discussion Paper Series No.104	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------